

小矢部市立東部公民館

◆事業の目的

子どもたちが、その保護者や地域の人達とふれ合いながら、互いに力を合わせ共通の自然体験をすることで社会性をもったより豊かな情操を育ててほしいと企画した。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
4月24日(日)	①ジャガイロの植付と枝豆の種まき	地区内横谷の子ども農園	51名
6月5日(日)	②その後の生育状況観察と手入れ	地区内横谷の子ども農園	36名
6月18日(土)	③ホタルの観察会	地区内田川 谷内川周辺	19名
7月16日(土)	④ジャガイロの収穫とカレー会食ほか	子ども農園、東部公民館	51名
7月30日(土)	枝豆収穫(フリー参加)	地区内横谷の子ども農園	23名
9月4日(日)	⑤縄文パークとおやべふるさと歴史館探訪	縄文パークとおやべふるさと歴史館	19名
9月23日(金)	⑥私達のふるさとを再発見しよう	稲葉山頂、三角山など	26名

◆事業の様子

☆ ジャガイロの作付けとその成長観察

ジャガイロは、児童とその保護者等で種芋を自分たちで作り、畝に「チドリ足」状に植えつけた。枝豆は、畑に長手方向に赤い糸を張り、糸の内側に2個ずついねいに埋め込んだ。

約6週間後、生育観察に訪れると雑草が生い茂っていたため、みんなで雑草を抜き取り畑をきれいにした後、芽かきや肥料やり、土寄せなどを行った。手入れの重要性を学んだ1日だった。田園地帯であるが鋤を久しく使った親も多く、「腰が痛い。」という声があちこちで聞かれたが、子どもたちは元気に畑を走り回り楽しそうだった。



☆ ホタルの観察会

公民館で生育場所、種類、えさ、成長過程などを学習した後、観察場所の谷内川周辺へ移動した。ホタルは初めのうち数匹程度だったが、8時を過ぎるとその数が増え、数え切れないほどの乱舞状態になり、子どもも大人も一様に歓声をあげ、大満足だった。地域の自然環境を守ることを、他の動植物もみんなつながっていることを再認識した。

☆ ふるさと再発見の自然観察会

当地区は、縄文時代の遺物が多く発掘された「桜町遺跡」があり、展示施設で自分たちの遠い先祖について学んだ。稲葉山頂では三角点や風力発電の仕組みについて解説を受け、三角山で「貝化石」(うにの一種の化石)の採掘体験も行った。見慣れた地元のかげがえのない歴史や自然を知る貴重な機会となった。



◆事業の成果と課題

内容は素朴なものであったが、身近なふるさとの素晴らしさを体験し学習することに主眼を置き、活動できた。田園地帯の当地区ではあるが、親子ともに「作物を作る」「地元を知る」機会が少ない世代であり、参加者も増え事業への関心も高まりつつあるので、今後も継続していきたいと思う。